令和2年度　江東中 学校評価(分析と改善の方向性)

評価期間：令和2年4月1日～令和2年12月31日

評価基準　A　十分達成できた　B　ほぼ達成できた　C　あまり達成できなかった　D　全く達成できなかった

中期目標	短期目標	評価の観点	目標達成のための具体的方策				担当	主担当	評価方法（評価アンケート）			その他の評価方法	自己評価		改善の方向性	学校評価委員	
			だれが	いつ	どのように				生徒	保護者	教職員		評価	達成状況		評価	所　見
学力の育成	授業改善と教科指導の充実	各教科のアクションプランに基づき、授業改善および指導の工夫がなされている。	全教職員	年間	・本日のめあてを明確に提示する。 ・生徒の振り返りの場や方法を工夫した授業を行う。	1	研究	室安	③⑧		①④	・国・県の学力調査	B	○生徒アンケート肯定群はめあて、振り返りともに8割を超えている。 ○教職員については、めあての指示は肯定群が9割を超えている。 △振り返りについては6割にとどまっているが、昨年度と比較すると、肯定的回答が4割から6割と高まっている。	・さらなる共通理解と研修の機会をもち、意識を高めていく。	B	・授業の質を高めるために、今後も努力を継続していただきたい。
			全教職員	年間	・理由や根拠をもとに意見や考えを伝え合い、学びを深める工夫をした授業を行う。	2	研究	室安	④⑤⑥		②③	・国・県の学力調査	B	○互いにかかわり合いながら学ぶ場面の設定についてのアンケートでの肯定的回答は生徒・教職員いずれも100％である。 △場面を設定できてはいるが、一方で理由や根拠を挙げて説明する力は十分とは言えない。	・振り返りや評価の仕方が力を付けるためのものになっているか、理由や根拠が指導要領に基づいたものであるかを検討していく。	B	・授業の質を高めるために、今後も努力を継続していただきたい。
			全教職員	年間	・授業公開や相互参観を通し、自分の指導方法の改善を図る。 ・研修の成果を自分の実践につなげたり、校内に伝達したりする。	3	研究	室安			⑧⑩		B	○授業公開や相互参観による授業改善の機会については教職員のアンケート肯定群は8割であった。 △研修を実践につなげたり、校内への伝達をしたりすることについての肯定群は6割であった。	・時間等過重負担にならないような研修の持ち方を検討する。 ・日々の実践を充実させるために職員室での会話の中での意見交換を増やしていく。	B	・授業の質を高めるために、今後も努力を継続していただきたい。
		学校図書館の活用を図った学習の展開がなされている。	全教職員	年間	・学校図書館を活用した、調べ学習や言語活動を行う。 ・司書教諭や図書ボランティアと連携を図る。	4	図書館	堀			⑨	・教科担当者へのアンケート（前年度末）	C	△教職員による学校評価アンケートでは、授業で図書館活用ができている割合は3割程度であった。 ○各授業に必要な選本は継続的に実施した。 ○図書館活用資料を配布した。	・図書館を活用した授業を可能な限り公開しあうようにする。 ・全教科等での図書館利用、年間授業計画をもつ。	C	・図書館活用向上に向けての検討が必要である。 ・メディアの発達した今日、静かな図書館利用は困難なのか。 ・メディア中心となっているため、読書週間、月間なども取り入れ、感想を求めてもよいのではと思う。
	学習習慣の定着	家庭学習の定着・充実を図っている。	全教職員	年間	・授業と関連付けながら、手だてを工夫し、自主学習ノートの定着・充実を図る。 ・個々の実態に即した課題の出し方を工夫する。	5	教務	松島	②⑩⑪	③	⑪	・国・県の学力調査意識調査	B	○宿題や授業の小テストのための勉強は約8割の生徒が肯定的に答えている。 △計画的に家庭学習を行ったり自分で自主学習を工夫したりすることについては肯定群が5割程度にとどまっている。	・デイリーライフ（生活ノート）を利用して、生徒がその日の家庭学習時間の目標や内容の計画を立てられるようにする。 ・授業と関連づけた家庭学習課題の工夫に取り組む。	B	・子どものレベル差も少し加味した計画、アドバイスもしていただけるとより良いものになると思う。
人間力の育成	仲間づくりの充実	学級活動の充実を図っている。	全教職員	年間	・学級での班活動や当番活動、クラスミーティングの内容を工夫して帰属意識を高める。	6	特活	田邊	⑫		⑫		B	○学級担任を中心に、全学年においてSC（スクールカウンセラー）とも連携しながら、学級活動を行うことができた。 △学級活動によってクラスの一員としての気持ちが高まったとアンケートで答えた生徒は6割程度にとどまっている。	・仲間づくりトレーニングなど帰属意識を高められるような活動を取り入れる。 ・担任だけでなく他の教員やSC（スクールカウンセラー）等と連携した活動を継続する。	B	今後もこのままの取組を継続していただきたい。
		生徒会活動の充実を図っている。	全教職員	年間	・生徒総会や専門委員会の常時活動を活性化し、生徒の主体性・協調性・リーダー性を育成する。	7	生徒会	田邊	㉔		⑬		B	○互いの活動内容を理解し合うため、生徒会黒板の設置を行い、活動の「見える化」に取り組んだ。 △社会状況もあり活動の縮小もあったためか、生徒会活動への肯定的にとらえている生徒は約6割にとどまった。	・生徒がより主体的に活動ができるよう内容を工夫しながら全校活動の企画・運営を継続して行う。 ・呼びかけ等に有効活用できるよう生徒会黒板の活用方法の改善を行う。	B	今後も取組を継続していただきたい。
		学校行事の充実を図っている。	全教職員	年間	・体育祭や文化祭、修学旅行などの学校行事でねらいを明確にし、達成感をあじわわせる。	8	教務	松島	㉕		㉙	・行事後の振り返り ・アンケートQ-U	B	○教職員評価は全員が肯定的にとらえている。 ○生徒評価では、約8割が主体的に取り組んだと答えている。 △難しい社会状況の中で、内容を工夫しながら実施できたが、中には例年通りの内容で開催できずに、十分な満足感を持っていない生徒がいることが考えられる。	・行事後に効果的な振り返りをするために、活動前および活動中も各行事のねらいをしっかりと意識させる。行事後はそのねらいに対する振り返りをさせるようにする。	B	・難しい状況の中、考え実施された行事は生徒に響いている。
	道徳教育の充実	道徳科実施に向けた道徳教育の校内体制を整備している。	全教職員	年間	・別葉の改善と評価の工夫などを手だてとして道徳の授業の充実を図る。 ・グループ活動等による交流の場で、考えたり体験したりする道徳的実践力を発揮する場面を意図的に設ける。	9	道徳	長谷田	⑬㉒㉓	⑥	⑯	・ポートフォリオ（生徒） ・アンケートQ-U ・別葉への書き込み（教職員）	B	○道徳の授業を通して、生徒が道徳的価値について考えることはおおむねできている。 ○担任だけが授業をするのではなく、他の職員が授業を行う取組により、職員の道徳に関する意識も向上してきている。 △学んだことを実際の生活に生かしていく道徳的実践力を培っていく点においては、課題がある。	・生徒の実態をしっかりと把握し、実態に合わせて道徳の授業を実施・充実させていく。 ・グループ活動等による交流の場を充実させ、多様な意見にふれながら自分の考えを深めていく取組を継続して行っていく。	B	今後も取組を継続していただきたい。

令和2年度　江東中 学校評価(分析と改善の方向性)

評価期間：令和2年4月1日～令和2年12月31日

評価基準　A　十分達成できた　B　ほぼ達成できた　C　あまり達成できなかった　D　全く達成できなかった

中期目標	短期目標	評価の観点	目標達成のための具体的方策				担当	主担当	評価方法（評価アンケート）			その他の評価方法	自己評価		改善の方向性	学校評価委員	
			だれが	いつ	どのように				生徒	保護者	教職員		評価	達成状況		評価	所　見
	人権教育の充実	生徒の人権意識の高揚を図っている。	全教職員	年間	・人権集会に向けた取組を行う。 ・人権週間や人権講演会を通して、生徒一人一人の人権意識を高める。	10	人権同和教育主任	長谷田	⑯⑲⑳	⑦	⑰		B	○より良い集団を目指し、差別や偏見をなくしていくために他者理解が必要であることを考える人権集会を実施することができた。 ○職員研修を通して、人権意識を向上させるとともに、学校環境の環境を見直すことができた。 △職員研修について、教職員の評価が1学期に比べて肯定的評価が下がった。	・一人ひとりの人権について考えることができる人権集会を継続して行っていく。 ・各学期で職員研修を充実させ、さらなる職員の人権意識の向上につとめる。	B	今後もしっかりと考える機会を継続して持っていただきたい。
社会力の育成	ふるさと・キャリア教育の充実	自己理解を深めさせるとともに、キャリア発達を促す取組を行っている。	全教職員	年間	・生徒のキャリア発達を踏まえて、諸活動を計画・実施する。 ・職場訪問や職場体験、調べ学習を通して職業観・勤労観を育てる。	12	キャリア担当	山内	㉗	⑧	⑮	・職場体験事後アンケート ・職場体験後の生徒の振り返り	B	○「総合的な学習の時間」において、学年の発達段階に沿ったキャリア教育を行うことができた。 ○発達段階を踏まえた学習を行っているため、生徒・保護者のアンケート結果は肯定の割合が高い。 ○主要行事や職場訪問・見学・体験等の振り返りを適切に行い、キャリアパスポートとして積み重ねることが出来ている。 △職員の肯定の割合が低い。	・地域の職場訪問や市内の職場見学・職場体験を中心にキャリア教育を行っていく。 ・主要行事や職場訪問・見学・体験の振り返りを適切に行い、キャリアパスポートに積み重ねる。 ・生徒・保護者と職員との意識の差を改善するために、諸活動だけでなく、日常の学校生活における声掛け等も生徒のキャリア発達に通じることを職員間で共通理解を図り、キャリア教育に取り組んでいく。	B	今後も継続して取り組んでいただきたい。
		課題追求活動を通して、ふるさとへの誇りと、地域に貢献しようとする意欲を育てる。	全教職員	年間	・地域の教育資源を生かした課題追求学習を推進する。	13	総合担当	松島	㉖㉘		⑭	・成果物 ・活動後の振り返り ・県学力調査意識調査	B	○ふるさと学習において、地域の方々の協力をいただきながら、各学年のテーマにそった活動を実施できた。また、活動の成果物や発表形式についてはいろいろな方法を実践することができた。。 △例年のような市外での校外活動を行うことができなかった。	・地域の方々のご協力を得ながら、学年に応じた活動を進めていく。 ・学校や校区内での学びを深めるために、状況をみながら可能であれば市外での校外学習を実施する。	B	地域の協力を仰ぎ継続、発展させていただきたい。
健康教育	健康教育の充実	生徒の健康な心と体づくりのための取組を行っている。	全教職員	年間	・週一回のフッ素洗口を実施する。 ・バースデイプロジェクト、薬物乱用防止教室等を実施する。	14	担当	松井	㉙	⑨	⑲	・事後の生徒の感想	B	○保護者アンケート⑨肯定群は8割を超えている。 △生徒アンケート㉙の全校の肯定群は、6割である。	・生徒が自身の健康に気を配れるよう、保健室前の掲示物等を積極的に行う。 ・保護者への啓発は、ほけんだより等で続けて実施していく。	B	今後も取組を継続していただきたい。
	基本的な生活習慣作りの充実	基本的な生活習慣作りのための取組を行っている。	全教職員	年間	・学期に一回のノーメディア週間などメディアコントロールの取組を行う。	15	担当	松井	㉚㉛		⑳	・アウトメディアチャレンジ週間表	C	△生徒アンケート㉛より、全校の肯定群は5割ほどで、1学期よりも2学期の方が数値が低くなっている。 △メディアの取組を年間を通して行ったが、メディア削減という成果は出なかった。	・睡眠時間、学習時間の増加という観点から、メディア時間を考えさせる。 ・担当、担任からの呼びかけだけでなく、生徒発信で、保健体育委員の活用の仕方を改善する。	C	・便利なメディア削減は強い意志が必要。睡眠、学習に悪影響を及ぼす。 ・ノーメディアを含め家での状況、連携も必要になり難しい面だが子どものことを考えると推進してほしい。
	体力向上の取組の充実	全校をあげて体力作りのための取組を行っている。	全教職員	年間	・体育の授業での運動量の確保と柔軟性の向上を図る。 ・陸上やハンドボール大会などの機会を生かし全校体制で体力の向上を図る。	16	担当	原田	㉜			・新体力テストの結果比較	B	○毎時間ストレッチの時間を設けることで柔軟性は高まりつつある。また、運動量の確保では，個人差が出てしまう単元での工夫はできた。 △陸上大会やハンドボール大会の中止など機会を生かすことはできなかった。	・運動量を確保できる活動を継続して実施する。 ・全校を挙げての活動では，全教職員が生徒に声をかけ励ませるような体制を整備する。 ・自己目標を立てさせたり、個人としての成長を記録させたりと、意識が継続するような工夫をする。	B	・残念ながら大会の中止はやる気がそがれますね。 ・能力差のある人との向きあいもしてくれていると感じます。
安全教育	防災意識の向上	防災意識の向上のための様々な取組を行っている。	全教職員	年間	・学期に一回の避難訓練を実施し防災意識の向上を図る。 ・防災に関する掲示を工夫する。	17	担当	教頭					B	○1学期は火災を想定した避難訓練、2学期は爆破物対応での避難を行った。 ○津波を想定した避難訓練を行った。 ○各教室に避難経路等の表示がある。	・年間計画に基づき各学期はじめに避難訓練を、今後も続けていく。 ・通報訓練、消火訓練など、関係機関と連携した訓練を積極的に取り入れる。	B	・自然現象を含めKYT（危険予知訓練）を行い、日ごろから意識を高めることも大切かと思う。
	安全意識の向上	安全意識の向上のための様々な取組を行っている。	全教職員	年間	・交通安全教室を行う。 ・春秋の交通安全週間中に登下校指導を行い交通ルールの徹底を図る。	18	担当	酒井	㉝	⑩	㉑		B	△1年生を対象とした，警察署の方に指導してもらう「交通安全教室」は，コロナ禍のため開催できなかった。 ○全校集会における交通安全指導や，春秋の交通安全週間の指導において，交通ルールの徹底を図ることができた。	・生徒の，安全意識の一層の向上のために，全校集会での指導や個別での指導をさらに充実させる。	B	今後も取組を継続していただきたい。
	情報モラル教育の充実	情報モラル教育の充実のための様々な取組を行っている。	全教職員	年間	・実態把握のためのアンケートを実施し、指導に生かす。 ・情報モラル講演会等を活用して、実態に即した指導を行う。	19	担当	原田	㉛				B	○生徒アンケート（Q31）肯定群56.3%で昨年の肯定群40.8%から10ポイント近く高まっている。 △取組は行っているものの生徒の自己コントロール力は十分育ってはいない現状がある。	・効果的な研修のあり方、保護者との協働のあり方を模索する。 ・保護者啓発の取組に積極j的に取り組んでいく。	B	今後も指導を繰り返し行っていただきたい。

令和2年度　江東中 学校評価(分析と改善の方向性)

評価期間：令和2年4月1日～令和2年12月31日

評価基準　A　十分達成できた　B　ほぼ達成できた　C　あまり達成できなかった　D　全く達成できなかった

中期目標	短期目標	評価の観点	目標達成のための具体的方策				担当	主担当	評価方法（評価アンケート）			その他の評価方法	自己評価		改善の方向性	学校評価委員	
			だれが	いつ	どのように				生徒	保護者	教職員		評価	達成状況		評価	所　見
信頼される学校づくり	生徒指導の充実	生徒理解に基づく組織的な生徒指導を行っている。	全教職員	年間	・アンケートQ－U等の結果を分析し、個々の生徒指導にあたる。 ・教育相談や保護者面談等を積極的に行う。	20	担当	酒井	㉟	⑥⑭	㉙㉚		B	○アンケートQ-U等の結果分析を通して，個々の生徒指導の参考にすることができた。 ○計画的に教育相談を行い，個々の生徒指導に生かすことができた。	・今後も教育相談や日々の観察を通して，生徒の実態を把握し，個々の生徒指導に生かしていく。	B	今後も取組を継続していただきたい。
	支援体制の充実	個に応じた支援を組織的に行っている。	全教職員	年間	・月一回、校内委員会を定期開催する。 ・市教委や関係諸機関との連携、協働を進める。 ・SC、SSW等との連携を密にし、計画的に活用する。	21	推進者	酒井			㉒㉓ ㉔㉘		B	○進路保障推進委員会を定期的に開催することができた。 ○市教委や医療とも連携し、不登校生徒の支援につなげることができた。 ○SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）等との連携を密にして個に応じた支援を行うことができた。	・進路保障推進委員会を継続して開催し、個々の生徒の実態と背景を把握していく。 ・市教委や関係諸機関とのさらなる連携をしていく。	B	今後も取組を継続していただきたい。
	学校予算の適正活用	適切で有効な予算計画を立て、適切な執行を行っている。	全教職員	年間	・前年度の執行状況と本年度の教育計画から費用と予算を見直し、適切に執行する。	22	担当	筆谷					B	○年度初めに各教科の備品・消耗品等の予算額について要望等取りまとめ、管理職と協議のもと計画的に執行できた。	・教職員と連携して、教育環境改善のため効果的な予算執行をしていく。	B	今後も取組を継続していただきたい。
	安全な学校環境作り	安全な学校環境作りの取組を行っている。	全教職員	年間	・月一回の安全点検を行い、速やかに修繕、改善提案をする。	23	担当	松井		⑪	㉕		B	○管理職や事務主幹との報連相により、修繕や改善提案をすることができた。 △実施できない月もあった。	・今後も継続して教職員の協力のもと、実施していく。	B	・達成できない月の内容が改善できたのか。結果が状況で見えづらい。
	学ぶ場にふさわしい学校環境作り	学ぶ場にふさわしい学校環境作りの取組を行う。	全教職員	年間	・ICT機器などの充実を図る。 ・掲示物等を工夫し、学ぶ場にふさわしい環境を整える。	24	担当	教頭					A	○特別教室へのエアコン設置、GIGAスクール構想に係るタブレット端末の整備や感染症対策に係る校内の消毒などを行い教育環境の整備に努めた。	・教職員の意見を積極的に取り入れ、学び場にふさわしい環境づくりを 推進していく。 ・リモートシステムの積極的活用やデジタル教科書使用についての取組・報告など、全教職員で活用能力を高めていくためのタブレット端末活用研修会を行う。	A	・時代、環境に即した設備が整い良かった。
	積極的な情報発信	家庭、地域に向けての情報発信を積極的に行っている。	全教職員	年間	・学校だよりや学年通信を充実させたりHPや配信メールを活用したりして情報発信を行う。	25	総務	教頭		⑯	㉗		A	○学校だよりや学年だよりを定期的に発行することができた。 ○ホームページに学校だよりを掲載したり保護者への急な連絡について配信メールを使い迅速に行うことができた。	・学校だより、学年通信等での情報発信を定期的に行い、学校の様子が具体的に伝わるような情報発信を継続する。 ・ホームページの充実と定期的な更新を行う。	A	・学校だより発行により学校の様子がよくわかる。 ・ホームページ、配信メールは今後も迅速にお願いしたい。保護者にとってより良い情報アイテムとなる。
	組織として対応する教職員集団の醸成	組織として対応する教職員集団となるような取組を行っている。	全教職員	年間	・報・連・相を徹底し、組織的に対応する。 ・担任者会等、連絡会を有効に活用する。	26	総務	教頭			㉖		B	○チームとして補い合いながら、組織的な対応ができていると感じている教職員が多い。 △主任のリーダーシップを求める声もある。	・会合の定例化など、組織として、役割や進捗状況が確認できる体制づくりをすすめる。	B	今後も組織的な対応を継続して行っていただきたい。
	働き方改革の推進	働き方改革の視点から、様々な取組を行っている。	教頭	年間	・働き方改革の視点から、個人としてまた学校として業務改善に取り組んでいる。	27	総務	教頭			㉜		B	○具体的な業務の合理的削減に取り組んだ。 ○組織的・計画的に公務を遂行することができている。 ○時間外勤務を減らすために業務改善に取り組む意思がある職員が多い。	・各分掌において業務量の削減や平準化(均等化)をさらに進め、チームで校務を遂行していく。	B	・環境の変化、コロナもあり、つい時間外勤務が増えることになりますね。 ・今までの仕事量をどのように改善されたか少し話してもよいと思う。 ・子どもたちとの向きあいは減っていないと思う。